

令和5年度

邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検・評価報告書



令和6年8月

邑南町教育委員会

目 次

はじめに	．．．	1
1 教育委員会の開催実績	．．．	1
2 教育委員の諸活動	．．．	4
3 教育委員の研修等	．．．	4
4 教育委員会だより	．．．	4
5 教育委員会所見	．．．	5
6 第3者評価期間委員からの意見骨子	．．．	9
7 令和5年度邑南町教育委員会点検・評価表	．．．	13
(P 1 ～ P 3 5)		

資料 教育委員会点検・評価に係る自己評価の考え方

令和5年度教育委員会点検・評価と公表についての自己評価について はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、事務の管理及び執行について点検・評価を行い、その結果の報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されています。邑南町教育委員会では、効果的な教育行政の推進と町民への説明責任を果たすために、邑南町教育施策の実施計画をもとに、自己点検及び評価を行い、第3者評価委員の意見をふまえて議会へ報告します。

1 教育委員会の開催実績

定例（毎月開催）の教育委員会… 12回

臨時の教育委員会… 4回

*詳しくは以下のとおりです。

開催日	主要議題（報告事項、予算関連事項、その他の事項除く）
4月28日	1. 邑南町ポイント付与制度実施要綱の制定について 2. 学校支援地域コーディネーターの委嘱について 3. 令和4年度邑南町一般会計補正予算第15号（専決処分）について 4. 令和5年度 邑南町立小中学校主任等発令意見具申について 5. 邑南町社会教育委員の委嘱について
5月25日	1. 社会教育主事の任命について 2. 令和5年度邑南町一般会計補正予算第2号（案）について
6月29日	1. 邑南町教育支援委員会委員の委嘱について 2. 教育支援委員会への諮問について 3. 邑南町教育委員会事務局組織規則の一部改正について 4. 邑南町体育協会の名称変更に伴う関係告示の整理に関する告示の制定について 5. 邑南町公民館運営審議会委員の委嘱について 6. 井原公民館再整備検討委員会委員の委嘱について 7. 邑南町立学校教職員旧姓使用取扱要綱の制定について 8. 令和5年度邑南町教育施策実施計画について 9. 邑南町学校給食費条例施行規則の一部改正について

7 月 2 0 日	1. 指定学校変更について 2. 邑南町教育委員会の点検・評価及び公表に係る第3者評価機関委員の委嘱について 3. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検・評価について 4. 財産の取得について
7 月 2 6 日	1. 邑南町教育委員会の点検評価及び公表に係る第3者評価機関委員の委嘱について 2. 教科書の採択について 3. 一般図書の採択について（特別支援学級用）
8 月 1 6 日	1. 井原公民館再整備検討委員会委員の委嘱について 2. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検・評価について 3. 令和5年度邑南町一般会計補正予算第5号（案）について 4. 教育支援委員会の答申について 5. 財産の取得について
9 月 1 日	協議事項のみ
9 月 2 2 日	1. 社会教育主事の任命について 2. 区域外就学について 3. 令和5年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の追加認定について 4. 指定学校変更について 5. 教育支援委員会への諮問について 6. 学校給食審議会への諮問について 7. 財産の取得について
1 0 月 1 9 日	1. 区域外就学について 2. 邑南町奨学基金条例の一部改正について 3. 学校給食審議会委員の委嘱について 4. いじめ基本方針の改定について
1 1 月 8 日	1. 教育支援委員会の答申について
1 1 月 2 2 日	1. 令和5年度邑南町一般会計補正予算第8号（案）について 2. 令和5年度邑南町一般会計補正予算第9号（案）について 3. 令和5年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の追加認定について 4. 石見中学校改築工事請負契約の変更について
1 2 月 1 8 日	1. 指定学校変更について

1 月 2 4 日	1. 指定学校変更について 2. 令和5年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の追加認定について 3. 令和5年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助 新入学児童生徒学用品費の支給認定について 4. 瑞穂ハンザケ自然館の直営移行に伴う関係規則の整備に 関する規則の制定について 5. 邑南町小学校及び中学校通学費助成金に関する規則の一部 改正について 6. 邑南町小中学校児童生徒に対する色覚検査の実施について 7. 邑南町いじめ問題対策連絡協議会等条例施行規則の一部 改正について
2 月 5 日	1. 邑南町小学校及び中学校通学費助成金に関する規則の一部 改正について 2. 教職員の人事異動内申について 3. 石見中学校改築工事請負契約の変更について
2 月 2 2 日	1. 令和5年度邑南町一般会計補正予算第13号（案）について 2. 指定学校変更について 3. 令和6年度邑南町一般会計当初予算（案）について 4. 邑南町食育推進会議設置要綱の一部改正について 5. 邑南町奨学基金条例の一部改正について 6. 令和5年度 邑南町一般会計補正予算第13号（案）に ついて
3 月 2 5 日	1. 学校医・学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 2. 区域外就学について 3. 瑞穂ハンザケ自然館条例施行規則の一部改正について 4. 邑南町中学校部活動指導員配置事業実施要綱の一部改正に ついて 5. 邑南町地域指導者活用事業実施要領の一部改正について 6. 邑南町スポーツ推進委員の委嘱について 7. 指定学校変更について

2 教育委員の諸活動

- ① 学校行事への出席（入学式、卒業式など）
- ② 町、教育委員会行事への出席（はたちを祝う式典など）
- ③ その他の活動（学校訪問、総合教育会議など）

*詳しくは以下のとおり

開催日	内 容
4 月 3 日	教職員着任式
4 月 1 1 日	小中学校入学式
6 月 2 8 日 6 月 3 0 日	学校訪問（6 / 2 8 口羽小、羽須美中、瑞穂中、市木小） （6 / 3 0 矢上小、石見東、瑞穂小、阿須那小、 高原小、石見中、日貫小）
1 月 3 日	はたちを祝う式典
3 月 9 日	中学校卒業式
3 月 1 9 日	小学校卒業式
3 月 2 5 日	教職員退任式

3 教育委員の研修など

開催日	研 修 内 容
3 月 2 7 日	総合教育会議 テーマ「教育委員会の在り方について」

4 教育委員会だより

令和5年度は、教育委員会だより「邑南の教育」を年2回発刊しました。

内容は、教育委員会の会議などの活動状況に加え、各学校の紹介、社会教育関係行事などの紹介をしました。

5 教育委員会所見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政の責任体制が明確化された、新たな教育委員会制度が、平成27年4月1日から施行され、邑南町教育委員会では平成28年から新制度に移行しています。

毎年度「教育施策の実施計画」を定め、具体的な事業内容については教育委員会だより「邑南の教育」を通じて、町民の皆様方へお知らせしてきました。

教育委員は、「教育の魅力化」の推進のため学校訪問により各校の抱える課題の把握に努めました。「教育委員会の在り方について」をテーマにした総合教育会議を実施しました。

以下、令和5年度の主な事業です。

（１）教師力向上対策事業・学力向上対策事業の取り組み

【教師力向上対策事業】

① 学び合い訪問指導（計11回）

主体的・対話的で深い学びの実現の為に必要な授業づくりの手法を研究するための事業を実施しました

講師：山下 政俊氏（邑南町学び合い専任講師）

② 情報活用教育講座

図書資料などから必要な情報を引き出したり、まとめたり、表現したりする力を子どもたちにつける手法を学ぶ事業

講師：塩谷京子氏（放送大学客員准教授）

③ 多様性教育ガイドセミナー

自分との関わりを大切にし、差別を読み解く確かな力、差別に立ち向かう力を伸ばすための手法を学ぶ事業

講師：土田光子氏（おおさか多様性教育ネットワーク 共同代表）

森 実 氏（おおさか多様性教育ネットワーク 共同代表）

講師が、台風のため急遽来町できなくなり中止する。冬季休業中の延期も考えたが、講師の都合がつかなかった。来年度は、ぜひ実施したい。

【学力向上対策事業】

①辞書引き学習会の実施

小学校1年生から辞書引き学習に取り組み、子どもの読解力を高めたり、調べたりする力を育てるための事業

講師：深谷圭助氏（中部大学教授）

②リーディングスキルテストの実施

小学校6年生を対象にWebにてリーディングスキルテスト（読解力テスト）を実施し、その結果を分析し、各校の学力向上に役立てる事業

③花まる算数教室の実施

全小学生の希望参加で、年間7回（羽須美地域、瑞穂地域、石見地域 同時開催）算数の基礎的・基本的な問題や発展的な問題を解くことで、基礎的な学力育成を図るとともに、算数の対する意欲向上を高める事業

講師：地域ボランティア、地元高校生

④調べる学習作品展の実施

町内の小中学校から調べ学習の作品を募集、展示、評価する機会をつくることで、図書館活用教育などの充実を図る事業

○前期～9月中旬、後期～1月下旬から2月上旬に実施

（2）学校の魅力化

①地域とともにある学校づくり

地域子ども達にどのように育てほしいのか、どんな力を付けてほしいのかという目標やビジョンを共有し、地域・学校・家庭とが一緒になって取り組みました。

○羽須美地域：育てたい子ども像を、「自分に自信をもち、人とつながることができる子ども」、「ふるさとを愛する子ども」を掲げ、地域との共有を始めた。

○瑞穂地域：育てたい子ども像に必要な要素を盛り込んだ人間力マップ「S I S Uマップ」を完成させ、活用方法の検討を始めた。

○石見地域：様々な活動にあたり、育てたい子ども像を8つキーワードと合い言葉「いわみ力」を意識して取り組んだ。

② 邑南町小規模特別認定校制度による取組

自然環境を生かすなど、特色ある教育を推進している小学校に一定の条件を付して通学区域外からの就学を認めることにより、児童の心身の健康増進と豊かな人間性を培うこと、また学校の活性化を図ることを目的とした小規模特別認定校制度を令和元年度に創設し、日貫小学校を指定校としております。

（小規模特別認定校への就学の条件）

- (1) 邑南町に居住していること
- (2) 小規模特認校の教育活動に賛同し、協力すること
- (3) 保護者などの責任と負担において、児童が安全に通学できること
- (4) 原則として1年間以上、最長で卒業するまで就学できること

（3）学校施設整備事業の実施

町内中学校3校のトイレは瑞穂中が整備済で6年度2学期から石見中は新校舎が供用開始となるため、トイレ環境平準化のため羽須美中のトイレ床乾式化及び洋式化改修整備を実施しました。

学校施設照明のLED化は、財源となる交付金の繰越が認められず、年度内完了の見込みが立たないことから、次年度以降計画的に実施していくことに変更しました。

（４）石見中学校改築事業

令和２年度に基本構想基本計画を策定、令和３年度に基本設計と実施設計を完了、令和４年９月に改築工事（令和６年５月末の完成予定）に着手しています。

今後の予定は令和６年度（新校舎完成後）に既存校舎の解体・校庭や外構工事を発注し、学校全体の整備事業完了とする予定としています。

（５）公民館のあり方

公民館活動において、起こしてはならない事故を発生させてしまいました。二度と事故を発生させないため、救急救命や屋外活動に関する研修等を改めて実施し、職員の意識改革に努めました。その上で安心・安全を徹底し、今一度地域住民が集い、学びの場としての公民館を目指して参りました。

今年度も社会教育の幅広さや楽しさを知ってもらうための場として「WE フェス」を開催しました。今回は、子ども達の学校以外での活動披露の場ということも意識し、子ども達の活動発表や展示を行いました。活動発表では、子ども達がプレゼンやパネルディスカッションにて、台本やメモではなく、自分の言葉で発表や発言を行っていたのが印象的でした。子ども達自身の成長もありますが、活動に関わる大人達の関わり方も良かったと感じました。「学びのサイクル」による人づくり促進事業の補助を受け、公民館と地域組織等が協働で活動を行うことで、人材育成や関わる人材の増加などを意識して取り組み、自発的・継続的に取り組む人づくりに努めました。

（６）共生社会の実現関連事業について

障がい理解と障がい者理解を最大の目的としたフィンランド共和国との国際交流については、理解を深めていただくための取り組みを実施しました。

- ① 邑南町共生社会推進アドバイザーによる「一歩踏み出す勇気～自分が変われば世界が変わる～」講演会を中学生対象に実施しました。
- ② フィンランド共和国交流事業については、各公民館でフィンランドの文化を学ぶ事業が増え、国際交流員とフィンランドの食文化、クリスマス、モルック体験など交流事業を実施しました。

（７）国史跡久喜銀山遺跡の保存活用に向けた取り組み

令和３年１０月に国史跡に指定された久喜銀山遺跡の保存活用について、令和４年度から２カ年かけて国庫補助事業にて保存活用計画策定を行いました。

計画策定の目的は、久喜銀山遺跡を将来にわたって確実に保存し、歴史文化を生かしたまちづくりへの展開も目指しつつ、有効かつ適切に活用していくための基本計画の策定としています。このため本計画は、史跡の本質的価値や構成要素などを明確にした上で、それらを保存・活用していくための基本方針、方法、現状変更などの取扱い基準などを明らかにするものです。

また、地元で史跡保存や活用に尽力いただいている久喜銀山振興協議会に所属する久喜銀山ガイドの会、一般社団法人コミュニティパートナーズなどの団体と協働して、草刈、除草、倒木処理などの史跡環境整備や、ガイド研修や案内用冊子印刷等を行い、観光・学習の案内窓口の充実を図りました。

６ 第３者評価機関委員からの意見骨子

１. 生きる力を育む教育の推進(学校教育)

施策１「安心・安全・信頼の学校・学級づくり」

１)点検・評価P2～ 事務事業名③確かな学力を育む

○低学年対象に実施した辞書引き学習会について、各学校で分析を行っているが、具体的にどのような分析を行い指導に役立てているのか示してほしい。

○子ども笑顔キラキラサポート事業は年々相談件数も増えているが、人材不足で要望どおり配置できない状況であり、今後学校の要望に対応するため幅広い人材を求め、ため賃金など労働条件の改善が必要だと思う。

○ICT教育の推進について、タブレットの持ち帰りが出来ない児童生徒について分析し、持ち帰りを希望する児童生徒すべて利用できるような環境整備を行い、家庭学習を進めることに活用して欲しい。

○タブレットは算数・数学の票や図を読み取って理解する力を養うことに適しており、そのほか読解力や記述力を求められる課題については「慣れ」が必要な場合もあり、多数の問題を収納する有効な手段であることから、ICT教育の推進を積極的に行って欲しい。

○GIGAスクール推進の現状についてさらに検証し、当初指摘されていた課題等がどのように改善され、今後GIGAスクールをどのように進めるか考える必要がある。

○全国学力学習状況調査、島根県学力調査において、町全体として現在の位置づけを公表して、さらなる学力向上を図るべきと考える。また、教育委員会は各校任せとせず、各校の指導結果がうまく適合しているか総括し、改善点について指摘するくらいの積極的指導も必要と考える。

○ALTがこれまで以上に各校での指導にあたり、子ども達が「英語」の上達が認識できるような方法を考えて欲しい。

2)点検・評価P5～ 事務事業名④特別支援教育体制の構築

○特別支援教育体制とし町は積極的に取り組んでおられ、評価する。

個々の児童生徒に寄り添った支援や指導について、委員会や各校と連携し、今後も子どもたちが学習する、学習できる環境づくりに取り組んで欲しい。

○いじめの重大事態の事案について学校と一体となった「早期対応、すべての児童生徒が安心して充実した学校生活」を進めるうえで教育委員会の積極的な対応について様子がわかりづらい面がある。

施策3「安全・安心な教育環境づくり」への支援

1)点検・評価P10～ 事務事業名①学校設備の整備

○瑞穂中学校の体育館について、雨漏りがあり雨天に使用できない状況があると聞いている。指定緊急避難施設でもあることから早急な対処をお願いしたい。

2. 地域を担う人材の育成(社会教育)

施策1 邑南町が推進する人材育成のステップ

1) 点検評価P13 事務事業名①地域とともにある学校づくり

○地域の実情について学校、地域と行政で思いの共有を行ったとあるが、実際にはその認識の大きな差があり、コミュニティースクール導入に向けても大きな課題だと思う。今後その差を埋める施策をぜひ考えていただきたい。

施策3 「学び」と「交流」で繋がる公民館事業

1)点検評価P21～ 事務事業名③多様な分野の学習の場の提供

○平和学習として、各公民館の取り組みに差があると感じる。「平和」ということがどれだけ大切なことであるかを知ることが重要だと思う。特に「今があるのは、過去の人たちによって守られた」ということや「生きている、生かされていた、だから生きていこう」など、学ぶ手法はたくさんあると思うので、各館とも積極的に取り組んで欲しい。

施策5 社会体育の充実

1)点検評価P29 事務事業名①生涯スポーツ活動

○部活動の段階的な地域移行について、目立った進捗が見られない。

今後どのようなスケジュールで進めていくのか示して欲しい。

スポーツ部だけではなく、文化部についても積極的に取り組んで欲しい。

3. 地域文化の創造

施策1 ふるさとの歴史・文化に関する学習の推進

1)点検評価P32～ 事務事業名①関係設備の整備・充実と有効活用

○郷土館入館の際には、玄関でスリッパに履き替えるようになっている。来館者には高齢者はもちろん障害のある方もおられ、スリッパへの履き替えや慣れないスリッパでの移動のリスクが高いと思う。バリアフリーについての取り組みを検討して欲しい。__

令和6年8月8日

邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検、評価に係る第3者評価機関

委員 高橋 智也

委員 杉本 沙織

委員 小松 哲也

委員 鳥居 清枝

委員 平野 一成

委員 長谷川 淳

委員 川中 幸子

委員 森光 美佐子

委員 三上 結城

委員 八田 一利

7. 令和5年度邑南町教育委員会点検・評価表

別添のとおり。なお、各種事業の延期や中止については、実績評価の点数には影響させていません。

令和5年度邑南町教育委員会点検・評価表

【総合評価】

主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。

【継続、廃止等】

「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向性を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。

【実績評価】

「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階で評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階で評価することとする。

1. 生きる力を育む教育の推進(学校教育)

施策1 「安心・安全・信頼の学校・学級づくり」

～つながり合い、学び合い、高めあう教室・学校づくり～

事務事業名	① 人権・同和教育の推進		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
教育委員会や学校において多くの研修機会を設けるとともに、教職員で構成する町教育研究会の人権・同和教育部会でも継続して職員研修を行い、学校全体で人権意識の高揚を図り、進路保障の取組に努めている。 今後も継続し、より一層推進していく必要がある。		9.0	改善し 継続
課 題			
人権に対する知識や理解、人権感覚を身につけるためには、継続して取り組む必要がある。その必要性を周知していくことが大切である。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○人権研修 転入教職員人権・同和教育研修は、特別の事情がない限り転入してきたすべての教職員が参加し、「邑南町の人権・同和教育の現状と課題、学校での人権・同和教育の推進」というテーマで、1学期に実施できた。また、各学校においては、全体計画をもとに年間研修計画を立てて職員研修を実施した。 ・邑南町教育研究会 人権・同和教育部会 2 回 夏季研修会では、自校における人権・同和教育の研修の進め方について、県人権同和教育課作成の資料をもとに参画型の研修を実施し、校内研修の取組の一助とした。 ・多様性教育ガイドセミナーの実施(台風のため、講師が来町できず急遽中止。講師に都合により代替日(夏季・冬季休業日の実施)が設定できなかった。)			9

事務事業名	② 実践的な学習の推進		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
どの研修会でも積極的に学ぶ教職員の姿が見られた。 研修の成果を授業に生かす学校が見られ、意欲的に学ぶ子どもの姿につながっていた。昨年度同様、学び合い授業づくりの自校の研究に役立てながら、児童・生徒の学習意欲や学力調査結果の向上につなげた。 学習指導要領で示されている「主体的で対話的な深い学び」につながる授業改善を図ることができた。		9.0	改善し 継続
課 題			
教師力向上のための研修会は、12年間継続して開催している。前年度の内容や参加者の感想などをまとめた研修案内を教職員に配布したり、邑南町教育研究会との連携を深めたりするなど、本研修の意義を事業説明会などや学校訪問などで管理職や学校職員に伝達し、より多くの教職員が主体的に研修に参加できる工夫を運営面を含めて行っていくことが必要である。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○教師力の向上 ・学び合い授業の公開と研究協議 各校、年に1回、学びあいの授業を公開し、研究協議を行うことで、授業改善の一助とした。町内の学校にも案内し、他校の授業をお互いに見合い、授業について協議することを通して、「主体的で対話的な深い学び」を目指す授業のあり方について学ぶことができた。 ・情報活用教育講座の実施 町内の教職員・学校司書を対象に情報活用に関する研修を行い、資料などから必要な情報を引き出したり、まとめたり、表現したりする力を子どもたちにつける手法を学んだ。 ・外国語セミナーの実施 外国語について、これからの学びの方向性と小学校と中学校の接続の在り方についての研修会を実施した。 ・辞書引き学習会の実施 小学校低学年から言葉への関心を育てることで、基礎学力の定着とともに学習意欲の向上をはかるための辞書引きのあり方についての研修を実施した。			9

事務事業名	③ 確かな学力を育む		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業を行った。 主な事業の一つである花まる算数教室は、参加した子どもは楽しく学ぶことができた。年度末のアンケートは、ほとんどの子どもが「算数が好きになった、わかるようになった。また参加したい」と回答していた。各学校の学習支援にもつながっている。地域スタッフや高校生スタッフの多くの方の協力が支えとなって実施できている。 低学年対象に実施した辞書引き学習会では、意欲的に辞書引きに取り組む子どもの姿が見られた。学習会後も継続して辞書引きに取り組み、1000 枚以		9.4	改善し 継続

上の付箋を貼った児童も多く見られた。児童の読解力を高めたり、調べたりする力を育てるとともに、学習意欲の向上を高めることができた。 学校毎の分析については各学校で分析を行っており、個に応じた指導に役立っている。 全国学力学習状況調査・島根県学力調査を実施し、その調査結果から、各校において児童生徒一人ひとりの課題を明確にし、改善の方向性を見出すための分析を行うよう指導した。訪問指導などで各学校に聞き取りを行った結果、各校とも分析を踏まえ実態に沿った取組が行われた。各学校で分析結果を個に応じた指導に役立っている。 定期的に学校司書の連絡会を開催した。各学校での取り組みについての情報共有やワークショップを行い、他校の取り組みを取り入れたり、新任の学校司書の知識を広げたりすることにつながった。また、県立図書館主催の研修会に参加する事で、新しい考え方を取り入れることができた。 子ども笑顔キラキラサポート事業は、学校からの配置要望人数、時間数に対して、調整をして配置を行った。また、支援を必要とする児童生徒について相談があった場合は、すこやか相談会を活用した相談支援チームによる学校訪問を行い、支援方法について検討、助言をした。 外国語指導助手(ALT)招致について、令和 3 年度夏よりALT3 名体制としたことで、各学校へのALTの訪問時間が増加した。このことにより ALT が授業者と連携しながら、授業をする場面を増やすことができた。小学校中学年の外国語活動では、チャンツや歌など楽しみながら行う活動を通して、外国語に慣れ親しむことができた。小学校高学年の外国科では、ALT との英会話をする機会が増えることで、必然性のあるコミュニケーションが生まれる言語活動を増やすことができた。中学校の英語科では、生徒が聞きたい、知りたい、伝えたいという感じる内容や場面を設定し、ALT と繰り返し会話をすることで、コミュニケーション能力を高めることにつながった。	
課 題	
基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業の花まる算数教室は年間 7 回実施した。(登録者 98 名 全小学生の 20%登録 参加人数 28%増) 「分かるようになった」という児童の意識や指導スタッフから肯定的なことばがけを受け参加者の満足度は高い。登録人数が増えてきたので、きめ細やかな支援体制を作るために、多くのスタッフの確保を行いたい。 学力調査では、各学校で調査結果・分析を踏まえた取組がされている。訪問指導などを利用して、読解力向上の取組や各学校の効果的な取組を進んで紹介することを通して、各校の学力向上の取組につなげたい。 図書の廃棄について各学校との共通認識はできているが、邑南町としての廃棄基準の作成が求められる。 子ども笑顔キラキラサポート事業は、必要に応じて、児童生徒の実態把握や支援、対応についてすこやか相談会で対応しているが、年々相談件数も増え、比例して支援員の配置人数、時間数ともに要望は増えているが人材不足で要望どおり配置できない状況である。 予算的な課題が多く、各設備が老朽化しており、教材及び設備を活用した授業は、教職員の努力に依存しているところが多い。	

主な事業内容と実施状況	実績 評価
○基礎学力の向上・定着 基礎学力向上・定着を図るために、算数や語い学習に重点を置いた事業を実施 ・花まる算数教室 3地域で7回ずつ実施。 ・辞書引き学習会 小学1・2年生対象 町内すべての小学校が参加 辞書引き学習を行うことでの語彙数の向上を図るとともに、1年生のうちから辞書に親しませることで学校や家庭でも辞書を活用する習慣を身につけさせた。	10
○学校図書館活用の推進 ・定期的に学校司書の連絡会を実施し、各校の取組みについての情報共有や図書館見学を行った。 ・学校司書の全校配置(平成21年度から町内全11校に1名ずつ学校司書を配置) ・県の「学校司書等による学びのサポート事業」を活用し、学校司書の人件費の確保の一助とした。 ・学校図書館を活用した授業において、子供達が自ら調べ、まとめたりプレゼンテーションしたりする事で、情報活用の力が身につけてきている。 ・調べる学習作品展 年2回開催 ・学校図書館などを活用した調べる学習作品展の実施 前期52点、後期63点の出品があった。	10
○笑顔キラキラサポート事業 ・生活支援員を小学校4校に8人配置した。 ・学習支援員を小学校8校に9人、中学校2校に2人配置した。	9
○ICT教育の推進 ・令和5年度はタブレットドリルを導入し、中学校では数学、小学校では算数の授業に活用をした。また、持ち帰りが可能な児童生徒については、タブレットの持ち帰りをを行い自習を進めることができた。 ・校務支援システムを三市三町で共同調達し、教員に対しての研修会を開催した。また、児童生徒の気付き「いいところみつけ」を入力することで、今後の生徒指導に役立てる。	8
○学力調査 ・全国学力学習状況調査4月実施(対象 小6年生 国語・算数 中3年生 国語・数学、英語) 小学校:国語～県平均を下回る。 算数～県平均を下回る。 中学校:国語～全国平均を上回る。 数学～県平均。 英語～県平均を下回る。 ・島根県学力調査12月実施(対象:5年生・6年生、教科:国語・算数／対象:中学校1・2年、教科:国語・数学・英語)小学校 5年・6年:国語～県平均を下回る 5年・6年:算数～県平均を下回る。中学 1年・2年:国語～県平均 1年・2年:数学～県平均 1年・2年:英語～県平均 調査教科における強み・弱み、生活アンケートから見える特徴等、邑南町全体の傾向を分析するとともに今後の授業改善の視点について示した。また、各学校で自校の調査結果の分析を行い、日々の授業改善や個に応じた指導に役立てている。児童生徒が自らの考えで整理し、自分の言葉で語尾までしっかり話すことや書くことができるように繰り返し粘り強く指導をしている。	9

○外国語指導助手招致(小学校・中学校) ・外国語指導助手(ALT)を3名配置し、1名が3～4校を担当し、町内11校へ訪問している。 ・小学校では、5・6年生では教科化された英語の授業、3・4年生では外国語活動での指導を行い、教職員・児童とゲームを交えながらコミュニケーションを図ることで、児童が英語に親しむことができた。また、授業以外の時間にも児童と触れ合うことで、国際交流を図った。 ・中学校では、基本的な英会話能力の向上を図るために週2日～3日訪問し、授業の打ち合わせや振り返りを行う時間を確保することで、充実した外国語指導を行った。また、休み時間などに生徒と触れ合うことで、国際交流が実施できた。	10
○教育設備の活用 電子黒板、各教室に設置したプロジェクター、書画カメラ、スクリーン、教育用パソコンなどの設備を活用した授業の実施(中学校においては、技術の授業での「情報の技術」での実習、その他理科・数学・英語などでの教材の提示を行っている。小学校においては、すべての教科への活用にも努めている。社会・理科・総合学習などでの調べ学習に活用している。) 小学1年生から中学3年生までの児童、生徒に対して、1人1台端末の導入を進め、さらにオンライン授業を進めるための機器についても導入をした。また、町内の11校全てに校内で使用できる校内LAN(Wi-Fi)を整備している。 貸出し用ルータの購入や、邑南ケーブルテレビ加入促進のため要綱制定を行い、家庭で持ち帰り学習が出来るよう整備している。	10

事務事業名	④ 特別支援教育体制の構築		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
特別支援相談ネットワークは学校や保育所・園に浸透し、相談の場として広く活用されている。特別支援学級の新設に伴い、必要に応じてケース会議、授業参観など実施した。また、特別支援学級の教育課程編成については浜田教育事務所から特別支援教育担当指導主事を招き、特別支援学級教育課程の個別相談会を実施した。保育所(園)と小学校、小学校と中学校が連携し、保護者と情報共有をしながらスムーズな就学となるよう努め、浜田教育事務所の特別支援教育支援専任教員に依頼し、相談の場を設けた。すこやかファイルは必要な児童に適宜配付を行った。 通級指導教室では、各学校の児童生徒の状況に応じた指導ができた。 教育支援センター(たけのこ学級)の活動では、定期的な学校訪問で実態把握、情報交換を行うことができた。また、町スクールソーシャルワーカー(SSW)や石見養護学校相談支援スタッフと連携し、児童生徒の特性にあった対応ができた。学校と役割分担をしながら、別室登校の児童生徒との関わり、保護者面談を行った。 いじめ対応支援事業の QU アンケートでは、各学校で学級づくり、人間関係づくりに活用されている。 教育支援委員会は、年2回開催した。幼児・児童・生徒の就学について慎重に協議し、町教育委員会に答申を受けた。		9.1	改善し 継続

課 題		
相談支援ファイルすこやかについては、特別支援教育コーディネーター連絡会で活用について継続して情報提供を行った。就学前から就労期までの「切れ目のない支援」を行うため、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成方法や必要性について検討する。 教育支援センターでは、不登校(傾向)であった生徒について中学校卒業前に、中学校から教育支援センターの情報提供を保護者などに積極的に行い、必要に応じて在籍高校と情報交換を行う。 QU アンケートの結果は、全国・県学力調査とも比較し、授業づくり・学級づくりの資料として十分に活用されるよう確認していく。 教育支援委員会については学校内の支援検討会から町教育支援委員会へのつなぎ、連携について、より一層の充実が図られるよう引き続き周知する。学校と保護者が就学のあり方について合意形成を図ることができるよう学校と適宜情報共有を行い、引き続き連携して行く必要がある。		
主な事業内容と実施状況	実績 評価	
○特別支援相談ネットワークの推進 ・邑南町特別支援合同相談会の定期開催を 15回、臨時開催を 24回の計 39回開催した。相談件数:66件 ・特別な支援の必要な子どもの早期発見・早期支援につなぐため、夏の保育所・園巡回訪問を各保育所・園(町内 9 箇所)を8月～9 月初旬に実施した。 ・特別支援相談ネットワーク総会を開催。 ・特別支援連携協議会は年度末に開催し、令和4年度のふりかえり、令和5年度の計画案について協議した。	10	
○教育支援委員会 教育支援委員会の審議会を開催した(審議対象者23名)。 ・令和4年度審議対象者15名の就学後の検証 ・令和5年度審議対象者23名の実態把握(保育所・園、小、中学校訪問) ・令和5年度審議対象者23名の就学支援についての保護者面談を個別に実施	10	
○通級指導教室 ・担当職員 瑞穂小:3 名 瑞穂中:1 名が配置されている。 ・令和5年度新規通級利用者:小学校14名(総数 40 名)、中学校5名(総数 11名)	10	
○教育支援センター(たけのこ学級) ・利用者:13名(単発の相談含む) ・延べ利用人数:521人 ・学校巡回:小学校8校、中学校3校を巡回 ・相談支援チームなど関係機関と必要に応じて情報交換ができた。 ・県立石見養護学校や矢上高等学校等と支援の相談など連携を図った。 ・必要に応じて、登校支援、別室登校児童生徒との関わり、保護者面談を実施した。	10	

○スクールソーシャルワーカーの活用 スクールソーシャルワーカーを2名配置し、いじめや不登校などの問題に対する教育相談体制を整備した。 ・各学校に訪問し、SSWの事業説明を実施した。 ・個別に家庭訪問やインターネットを利用したオンラインでの面談も実施 ・ケース会議にも参加し、関係機関と連携を図り、問題解決に取り組んだ。 ・令和5年度の相談件数は30件、対象となった児童生徒は22名であった。	9
○いじめ対応支援事業 ・町内小学校8校、中学校3校で1学期と2学期の2回、アンケートQUを実施し、学級集団の状況を把握・分析していじめ対応の実践につないだ。 ・いじめの重大事態の事案について学校主体のケース会議、保護者会、保護者面談に出席した。 ・いじめ対策連絡協議会・研修会を実施し、いじめに係る法律や子どもの見立て方について、研修を行った。	10
○こどもの居場所づくり 学校に馴染めないなどの悩みを抱える子どもに、安心して過ごせる居心地の良い居場所を提供し、学びの場の提供、情緒の安定や基本的な生活習慣改善など子どもひとり一人のニーズに合わせた支援を実施し、生き抜く力を育みながら将来の社会的自立につなげることを目的とした居場所づくりを検討した。 邑南町子ども条例の具現化を目指し、今後開設予定の邑南町子ども第三の居場所づくり事業の先進地3カ所を視察した。 2024年度実施に向けて準備を進めていたが、3月開催の総合教育会議で「ニーズ調査が必要」「設置の目的は理解できるが、現時点で時期尚早」といった意見があり、調査に時間をかけ邑南町に合った居場所を考えるべきとの見解が示された。今後ニーズ調査聴取を行い、邑南町に合った求められる居場所を検討する。	5

事務事業名	⑤ 就学環境の充実		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
スクールバスについて、概ね計画どおり運行できた。 就学援助費及び通学助成費の給付、就学時健康診断は、予定どおり実施することができた。		9.8	継続
課 題			
スクールバス車両については、計画的に順次更新し、利用者の安全輸送を確実に行うための車両整備が必要である。乗車人数の実績や過去の修繕実績や購入後の経過年数などを総合的に考慮し、車両の再編計画を適宜修正していく。車両数の関係から、本来であればスクールバスで通学したい児童生徒がバスを利用できていない現状がある。 就学時健康診断では、転居予定者について現居住地校区の小学校での健診を案内したため、転居先の校区の小学校での受診を要望される事例もある。転入予定者や転居予定者について早めに把握し、対応する必要がある。			

主な事業内容と実施状況	実績 評価
○スクールバス運営 ・児童生徒の通学手段を確保するため、スクールバス10路線(雪田線、宇都井区スクール専用便、戸河内・長田線、下口羽・上田線、高原線、出羽線、市木線、日和線、日貫線、石見中学校・日貫小学校通学支援便)を運行し、学校教育活動の支援に努めた。 ・土日などの学校行事の実施により、定期便以外の時間帯にスクールバス運行が必要な場合には、学校の要望に応じて臨時便を運行した。	9
○就学援助費の給付 ・要保護、準要保護児童生徒就学援助費の支給 認定者:小学生 77名、中学生 53名 支給額:小学生 5,655千円、中学生 5,822千円 支給額には、小学校入学前3名、163千円、小学6年(新中学1年)12名 756千円を含む。 ・特別支援就学奨励費の支給 該当者:小学生6名、中学生1名 支給額:小学生213千円、中学生71千円	10
○通学助成費の給付 ・通学費助成 該当者:小学生 11名、中学生 1 名 支給額:小学生 118千円、中学生 18 千円	10
○就学時健康診断 ・就学時健診:小学校8校を会場に 10 月から 11 月に実施 対象者70名 実施内容:内科・歯科検診、視力検査、聴力検査、面接検査	10

施策2 小さな学校の大きな挑戦を支援

～子どもたちの自信を育て、地域に信頼される学校～

事務事業名	① 地域を担う意識の育成		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
各学校で実施形態、内容などは違うが、それぞれ総合的な学習の時間の年間計画にもとづいて、講話や体験が行われていた。 また、キャリア教育については、平成 29 年度より行っている。 地域の特性などを生かした特色ある教育活動を行っている日貫小学校を小規模特別認定校に指定し、令和 2 年度より校区外から就学できる制度を設けた。		9.0	改善し 継続
課 題			
校長会や事業説明会などでキャリア学習の実施について依頼や説明をしている。 キャリア教育についてはキャリアパスポートの開始により各校での実践を重ねるとともに学期ごとの児童生徒の振り返りを充実・継続することが重要である。			

主な事業内容と実施状況	実績 評価
○キャリア学習 ・医療講話は、地域医療の講話～市木小(全校)、助産師の講話～石見東小(4年)、矢上小(6年)、羽須美中(1年)(2年)、瑞穂中(1年)、石見中(1年)、などで実施している。医療関係ばかりでなく、全ての学校においても、人との出会いを大切にしながらの学習を深めている。町内の全ての学校において児童・生徒一人一人が、キャリアパスポートを活用し、自らの学習状況などを振り返って自己評価をしたり、これからの生き方について考えたりすることを行っている。 ○小規模特別認定校説明会 ・9月7日(木)に矢上交流センターにおいて小規模特別認定校説明会を開催した。日貫地区活性化協議会会員、日貫小学校管理職、教育委員会から教育長ほか 2 名が参加した。	9

事務事業名	② 地域との連携・協働		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
おおなんドリームは各学校で探求的な学習に取り組み、各学校で成果発表まで実施した。 今後は、新たな形態を検討し、ふるさと教育の充実を求めている。		8.2	改善し 継続
課 題			
おおなんドリームにおいて、ふるさと教育の充実を図るため、探求的な学習を意識した取り組みをおこなった。 今後、このような情勢の中での新しい取り組み形態を模索していきたい。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○ふるさと教育の推進 ・各小中学校において、地元の人的資源や環境資源を活用し、講演会や体験活動を計画し、実施した。			10
○おおなんドリーム 今年度は各学校で取り組んだ探求学習成果を学習発表会や文化祭などを利用して地域の関係者等を招いて成果発表を行った。			7
○学校関係者評価 ・町内小中学校 11 校で学校関係者評価委員を選任し、各校で年 3 回以上委員会議や委員参観の日を設定し、学校の自己評価結果を踏まえた評価を実施し、町教育委員会に報告された。結果は、保護者などへ公表した。			10
○地域とともにある学校づくり(コミュニティースクールの推進) ・地域の子ども達にどのように育ってほしいのか、どんな力を付けてほしいのかという目標やビジョンを共有し、地域・学校・家庭とが一緒になって取り組むことを目的として、地域の住民や行政、学校(小・中学校)が主体的・創造的な対話を行いながら、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」の取り組みを進めました。 ○羽須美地域 羽須美地域全体を対象とした羽須美中学校区 ○瑞穂地域 瑞穂地域全体を対象とした瑞穂中学校区 ○石見地域 石見地域全体を対象とした石見中学校区			7

○中学校部活動の地域移行 今年度も地域連携として実施している、部活動の地域連携等事業費補助金を活用し、部活動への支援を継続で実施。部活動指導しておられる、地域指導者・部活動指導員を対象に研修会を実施。部活動の地域移行についての、国、県、他自治体や競技団体の動向や情報収集し、今後どのように進めていくかを検討した。	7
--	---

施策3 「安全・安心な教育環境づくり」への支援

事務事業名	① 学校設備の整備		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
・石見中学校改築事業 令和2年度 基本構想基本計画、耐力度調査、地質調査、基本設計 令和3年度 基本設計完了、実施設計完了 令和4年度 改築工事 契約 R4.9.5 複数年工事(債務負担行為) 解体設計業務完了・校庭外構設計業務完了 令和5年度 改築工事 工期 R6.5.31完了 令和6年度、解体・校庭外構工事を予定。 ・計画修繕の実施 町内中学校3校のトイレは瑞穂中が整備済で6年度 2 学期から石見中は新校舎が供用開始となるため、トイレ環境平準化のため羽須美中のトイレ床乾式化及び洋式化改修整備を実施した。残りの小学校についても次年度以降計画的に実施していく必要がある。 学校施設照明の LED 化は、財源となる交付金の繰越が認められず、年度内完了の見込みが立たないことから、次年度以降計画的に実施していくことに変更した。 昨年度より運転不能となった空調設備(口羽小学校職員室・校長室、高原小学校職員室)について、機器の改修工事を実施した。 劣化により故障の恐れがある瑞穂小給食用昇降機について長寿命化改修を実施し、児童の安全・安定的な給食提供環境を確保した。 老朽化した高原小学校特別教室棟改修のため設計業務委託を実施。令和6年度から改修工事を予定。 ・緊急修繕の実施 夏期休業終盤に落雷で日貫小学校普通教室 4 室の空調が故障、緊急対応で 2 学期開始に間に合わせ、熱中症対策等の安全を確保した。		9.0	改善し 継続
課 題			
整備が完了した施設以外については老朽化による劣化が著しい場所もあるため、緊急性を要する修繕工事により、応急的修繕を繰り返しているのが現状である。平成30年度に策定した学校施設長寿命化計画に基づき、大規模改修や更新対策、一般修繕などの予防保全的改修に転換していきコスト削減を柱とした学校整備を計画的に進めていく必要があると考える。			

主な事業内容と実施状況		実績 評価	
○学校施設の整備 ・小中学校衛生環境改修工事(羽須美中) ・小中学校LED照明 次年度対応に変更 ・学校改修実施設計 (高原小学校改修工事設計業務) ・石見中学校改築工事 (今井産業・溝辺組・石見工業特別共同企業体) ・応急措置が必要な個所については、随時修繕を行った。 (瑞穂小職員室エアコン修繕、石見東小特別支援教室改修、羽須美中学校特別支援教室等改修、小学校遊具修繕工事ほか)		9	
事務事業名	② 児童生徒の健康安全対策		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
児童生徒の安全対策で急務となるのが通学路の安全確保であり、防犯パトロールと通学路の安全対策の両面から実施していく必要がある。 防犯パトロールは、児童生徒の登下校の安全確保に効果を上げており、新規に青色パトロール隊の隊員になるための研修受講者が1人おられた。 また、通学路の安全対策を実施するために、町と道路管理者、学校、警察などで組織する「通学路安全推進部会」を活用し、危険箇所の合同点検、対策協議を行い、早期の対策が必要な危険箇所は改善対策を実施した。		10	継続
課 題			
通学路安全推進部会において、毎年通学路の危険箇所の抽出や課題の検討、関係部署への働きかけを行い、危険箇所解消を図っているが、未対策箇所の早期改善に向けて取り組みを進めていく必要がある。また、点検を行った箇所、対策を講じた箇所のその後の点検なども必要であり、各関係者で連携をして行う必要がある。 現在、子ども安全センターの青パト隊は、各支部で10人前後の隊員がおり、パトロールに従事しているが、近年、隊員の高齢化によりパトロールに従事できる方が減ってきており、パトロールなどの活動の継続が難しくなっている。引き続き、新規登録の募集活動に努めたい。今後も、青パト隊登録者が一堂に介して研修を実施し、日頃の活動に対し士気を高めてもらうことが大切であると思う。 なお、青パト隊の活動は基本的にボランティアで行っていただいており、謝礼や燃料代について支払うことは予定していない。今後もそのように考えている。 児童生徒の健康診断後の結果通知書や保健調査表の様式が学校ごとに異なるため、邑南町で統一し事務の効率化を図りたい。			
主な事業内容と実施状況		実績 評価	
○防犯・安全教育の推進 各学校でそれぞれ登下校時の安全指導、あいさつ運動、通学路の安全点検、避難訓練などの講習(研修)会を開催した。		10	
○感染防止対策 ・国の新型コロナウイルス臨時交付金等を活用した。		10	

○邑南町子ども安全センター ・地域住民の防犯意識の高揚と安全活動ボランティアの育成を図るための取組を実施した。 ・2月に青パト隊の防犯パトロール講習会を実施した。 ・青色回転灯によるパトロール(年末特別警戒活動など)を行うなど各地域で防犯のための各種活動を実施した。 ・従事者数:80名(町民) ・登録車両台数 80 台(内公用車 1 台)	10
○学校保健安全衛生対策 ・学校保健安全法で定められている定期健診の実施及び修学旅行前健診などを実施した。 ・各小中学校や学校医などの協力のもと、学校保健安全法施行規則に規定されている6月30日までにすべての小中学校で適切に定期健康診断を実施できた。〔環境保健公社委託検診(心電図など)、内科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、歯科検診〕 ・学校衛生基準に基づき、学校薬剤師及び養護教諭などと連携してダニアレルゲン検査、照度検査、空気検査を実施し、環境衛生の確保に努めた。 ○学校医との意見交換会 令和5年度は令和6年1月25日に開催。次回は令和7年度の実施予定。	10

事務事業名	③ その他		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
学校事務共同実施連絡協議会では、事務職員未配置校において、事務の平準化のためグループ内での支援体制を構築し、情報交換共有アプリを活用してのデータのやりとりやグループ会を未配置校で開催するなど負担の少ない方法により、事務処理を行い、学校運営に寄与することができた。奨学金では、年間を通して適切に処理できた。 教職員住宅では、必要に応じて速やかに修繕を行い、適切な住宅管理ができた。		9.7	改善し 継続
課 題			
学校事務共同実施は、年々増える事務量に対して、効率の良い方法を探っていく必要が生じている。また、事務職員未配置校への事務支援について、計画的な訪問のほか効率的・効果的な方法を考えていく必要がある。 本町では、東部・西部の2つのグループで活動を行っている。 邑南町奨学金について、経済的に困窮している者がより利用しやすい制度の在り方を見直す必要がある。 教職員住宅については、今後必要な住宅戸数や地域の検討、老朽化した住宅を含めた計画的な住宅管理に努める必要がある。			

主な事業内容と実施状況	実績 評価
○邑南町奨学金貸与事業 ・高等学校など、高等専門学校、専修学校、大学校または大学などに在学し、経済的に困窮している者に奨学金を貸与する。 ・令和5年度末時点貸与者2名 ・令和5年度末時点償還対象者3名 ・令和5年度末時点据置期間または償還猶予対象者2名 ・償還完了者 1名 ・免除者 1名	10
○教職員住宅 ・教職員住宅の保守・点検を行い、教職員が安心・安全に生活できるように努めた。 (羽須美地域8戸、瑞穂地域 13 戸、石見地域 16 戸) ・修繕が必要な箇所は随時修繕を行った。	9
○学校事務共同実施 ・学校における働き方改革につながる学校事務部門の充実、強化の推進を図った。 ・学校事務共同実施連絡協議会で、学校事務職員、町教育委員会や学校管理職との連携や、共同実施会を開くことで文書の整理保管などの事務の効率化を探った。 ・共同実施だよりを作成し、学校と町教育委員会の間の事務が円滑に行われるようにした。 ・平成26年度より、11校の内、事務職員未配置校1校という状況になり、これまでどおりの活動を続けることが困難となっている。そのため、西部(石見地域、市木)、東部(市木を除く瑞穂地域、羽須美地域)の2グループに分かれて活動を行い、事務職員未配置校への支援の継続を行った。また、矢上小学校に事務職員が加配され、西部グループ活動及び学校事務活動全体の質の向上、未配置校支援を中心に行っている。	10

2. 地域を担う人材の育成(社会教育)

～学び合いによる豊かな地域づくり～

施策1 邑南町が推進する人材育成のステップ

～人づくり・地域づくり・町づくりを推進する社会教育～

事務事業名	① 学校とともにある地域づくり		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
地域の実情に応じて、学校単位、地域単位で「どんな子どもに育てたいのか」をまとめ、「共有された子ども像」を学校、地域、行政（公民館）で思いを共有することができた。再度、公民館と学校でお互いの計画や事業等の共有を行った。		10	継続
課 題			
コミュニティスクールの導入に向けて、各学校や地域の実態に合わせながら「育ちたい、育てたい子ども像」を共有しながら実施していく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○学校とともにある地域づくり 中学校区ごとに育てたい子ども像の共有をし、その具現化に向け、公民館と学校で お互いの計画や事業等の共有を行った。			10

事務事業名	② 地域学校		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
公民館ごとに地域の魅力を発見・再認識できるよう意識し事業を展開した。 その中で、起こしてはならない事故を発生させてしまい、安全管理を見直すため、公民館まつり等を中止する館もあったが、今一度、安心・安全の徹底した活動を行うための研修等を実施し、屋内事業も含めて安心・安全を徹底した活動を心掛けて活動を行った。		7.0	改善し 継続
課 題			
ふるさと教育を安心・安全かつ効果的に実施できるようにするため、子ども達だけでなく、親世代の参加者数や地域の協力者を増やすことが必要である。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○地域学校の開設及び実施 阿須那・・地域資源である軍原キャンプ場で川遊びや魚釣り、自然遊具遊びなどを2回開催し、地域の方や地域の良さを知ってもらうことができた。 口羽・・地域の方を講師に地域のことを学ぶ学習会を実施。 田所・・小学生を対象に裾野市の事例を参考にして「何にもしない合宿」を実施した。 将来の隣人となることを想定して、年齢を超えた関係作りができた。 出羽・・出羽わんぱく学校を3回(野菜、味噌、恵方巻づくり)開催した。 高原・・両自治会の活動にスポットをあて、化石発掘体験活動の支援とブッポウソウ観察事業を行った。 布施・・「親子で魚釣り」を行い、釣った魚のお話を地元の方に伺った。 市木・・「アユのつかみ取りをしよう！」を開催した。 矢上・日和・・森林教育を実施した。 中野・・餅つきと書初め教室を実施した。 井原・・学校と連携して、地域の方が学校の授業でプログラミングを指導し、雲井の里の電光掲示板(イルミネーション)を作成した。 日貫・・米作り・そばづくり体験活動を実施した。 日和・・「日和子ども塾」で地域の自然素材を活用した宿泊キャンプを実施した。			7.0

事務事業名	③ 家庭教育		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
親子をターゲットにした「WE フェス」(社会教育フォーラム)を開催し、親子体操や親子で楽しめるブースを設置し、親子で様々な学びを体験してもらった。また、そのイベント内で「ミニミニ外国」も実施し、家庭だけでなく、地域で子育て、子育てを行う機運を高めた。		9.6	改善し 継続
課 題			
今後も同様なイベントを継続していき、様々な教育に関わる団体等と協働しながら行い、邑南町の子育て、子育てを楽しみながら考える場にしていきたい。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○家庭教育の支援 ・親学ファシリテーターの活動としては、親学プログラムを出前講座で取り組んだ。			9

○子育て講演会の開催 ・WEフェス(社会教育フォーラム)と連携し、親子での参加を募り、親子体操を実施した。また、そのイベント時に子ども達が学校や公民館、地域活動での成果物を見てもらったり、親子で学びのあるブースを体験してもらった。	10
○子育てに関するネットワークの構築 ・親子をターゲットにした「WE フェス」を開催し、普段から子ども達等を対象に様々な学ぶ機会を提供している団体に出展してもらい、活動の周知を行った。また、社会教育委員に研修を周知し、一緒に参加した。	9
○思春期子育て講座の開催 ・邑南町共生社会推進アドバイザーの浦田理恵さんを講師に「一步を踏み出す勇気～自分が変われば世界が変わる！～」という演題で浦田さんの実体験や家族とのつながりの講演を保護者参加可能にして町内の3中学校にて開催した。 瑞穂中学校26名 石見中学校65名 羽須美中学校33名	10
○自然教育体験事業の推進 ・株式会社「モンベル」より講師を招きテント設営体験、川での安全な遊び方の指導を受け、自然体験の促進を図った。また、安全に体験活動ができるよう、貸出し用のライフジャケットを整備した。	10

事務事業名	④ 青少年教育		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
地域素材(ひと、もの、こと)を生かして、子ども達が実践したい活動を協働で実施した。 地域の資源や人を知り、子ども達自身でできることを考え、実践することを通して、ふるさとを誇りに思い、地域の将来を見据え、自分の未来を考えていく意識の醸成を図ることができた。		10	継続
課 題			
子ども達との対等な関係性を築いていき、子ども達のやりたいことを公民館や地域でカタチにしていくことから始め、地域や公民活動につなげていく。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○体験活動事業 町公連・羽須美の軍原キャンプ場にてテント張りや火起こし、川遊び、アユのつかみ取りなどの様々な体験ができる事業を実施した。 阿須那・口羽・地域資源である軍原キャンプ場で川遊びや魚釣り、自然遊具遊びなどを2回開催し、地域の方や地域の良さを知ってもらうことができた。 田所・出羽・ふるさと探検隊で山菜採りを開催し、採った山菜を天ぷらやチヂミにして食べるなど食育の推進を図った。 田所・海でサビキ釣りをして、釣り方や生きた魚の扱い方を学び、釣った魚をその場で唐揚げにして食べるなど食育の推進を図った。 出羽・わんぱく学校(野菜、味噌、恵方巻づくり)を3回実施した。			10

高原・布施・高原小学校校区を対象に高原公民館と連携し、親子で魚つりを行った。高原公民館・美郷町の比宮公民館と連携しデイキャンプを行った。 高原・化石発掘体験活動の支援とブッポウソウ観察事業を行った。 市木・アユのつかみ取りを実施した。 矢上・日和・いこいの村にて森林教育を実施した。 矢上・焚火を見る会を実施した。 中野・鶴首カボチャを植えて、ハロウィンの日に持って帰ってもらった。中野地区の神社や名所を周るウォーキングを実施した。 井原・井原地区の寺や名所を周るウォーキングを実施し、自然資源である滝にて水遊びを実施した。 日貫・日和・小学生児童に対して様々な体験活動を実施するカルチャーバスを実施した。 日貫・あゆの生態を学び、つかみ取りを行い、食べるまでを実施した。5, 6年生を対象に紙漉きを実施した。 日和・地域の自然資源を活用した宿泊キャンプを実施した。	
---	--

事務事業名	⑤ 成人教育		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
リモートアクセスツールを使用し、出かけやすい各地域で研修を開催した。体験をふまえて研修を開催し、学びを深めた。		10	継続
課 題			
周知(広報)の仕方について、多くの方に参加していただけるように、引き続き早めにチラシなど配布し、関係団体やグループにも周知をしていく必要がある。また、時代の変化に合わせた研修会を実施していき、町民が求める情報や学びを提供していく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○ 邑南町民大学の開催 「邑南町人権講演会」(316名) 「チャレンジゴールボール大会」(56 名) 「ゆめパのじかん映画以上」(30名)			10

事務事業名	⑥ ボランティア活動の機会の充実		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
学校支援からのボランティア育成について地域コーディネーターに積極的に活動してもらい、学校支援を中心とした「応援団」の増員・設置に努めた。地域の方々を巻き込むことができている。		10	継続
課 題			
公民館事業や学校の授業等で地域住民が関わる機会を増やすことが重要。機会を増やすことでボランティア等を増加が期待でき、そこから子ども達、学校、地域がお互い良い方向に向くような関係性と事業展開を期待できる。			

主な事業内容と実施状況	実績 評価
○ボランティアの活動支援 ・地域の資源を活用した人材育成のためのボランティア活動、研修機会や情報の提供を行い、地域コーディネーターへも情報提供を行った。また、安心して活動してもらえるよう保険加入などの支援を行った。	10
○人材バンクの整備(学習支援の視点から) ・ボランティア登録者数は、280名となり、高齢化等より、登録者数は減少している状況だが、若者が所属する地域団体やちくせん団体等が積極的に地域や子ども達に関わるようになっているので、ボランティア登録の依頼を行い、地域コーディネーターと協力しての学校支援を行うことが今後期待できる。	10

事務事業名	⑦ 学習支援者の確保と育成		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
町内にある自主的なサークルなど多くの団体・グループに、必要な研修の場や講演会などの案内を公民館に協力してもらい積極的に周知することができた。 様々な学びの提供やファシリテーターを行うことができる社会教育主事講習の受講を公民館主事に周知している。令和 5 年度は公民館活動の中で、起こしてはならない事故を発生させてしまい、安心・安全の徹底した活動を行うための研修等を実施した。		9.0	改善し 継続
課 題			
各種少年団体指導者(登録指導者含む)の研修などのさらなる参加を促すための情報提供や周知が必要である。 事故を発生させないための安全確保の研修や救急救命、応急処置等の研修を実施する。併せて、公民館主事に社会教育主事や他の研修会の周知を行い、積極的に参加してもらう。			
主な事業内容と実施状況		実績 評価	
○少年団体指導者の育成 ・町民大学の案内、スポーツ少年団指導者講習会の案内、こども会や地域学校関係者、青少年育成邑南町民会議委員に案内を行い、活動を支える支援者、指導者の研修の場となった。		9	
○社会教育主事の育成 ・社会教育の指導者養成のため、公民館主事1名が社会教育主事研修を受講している。		9	

事務事業名	⑧ 団体・グループの育成・支援		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
子ども会育成会の支援について、保険加入促進や町民大学・県子ども会連合会からの研修案内など、学習機会についての情報提供や各団体の年間活動の把握など緊密な連携による支援体制の構築に努めることができた。		10	継続

課 題		
自主的なサークルなど多くの団体、グループが活動している。地域にある後継者不足などの課題に気づき、その解決課題に取り組める人づくりのため、地域に密着している公民館と連携し、研修など企画していく必要がある。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○社会教育関係団等の育成支援 ・町内の社会教育関係団体に、研修や講演会などの案内を行った。公民館や元気館のチラシも配布し、情報提供を行った。		10
○子ども会育成会の支援 ・町内の子ども会育成会へ助成金、学習機会についての情報提供と保険加入促進を行った。		10

事務事業名	⑨ 学習情報の提供		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
本町広報誌の連載、教育委員会及び公民館だよりなど、紙媒体での情報提供のほか、公民館だよりは邑南町ホームページでも閲覧できるようにしている。また、地区ごとの公民館同士の共催事業を実施し、より広範囲において情報の共有ができた。		9.0	改善し 継続
課 題			
各公民館で開催する地域課題の解決のための講座など、町民の多くが関心のある内容の講座は地区限定ではなく、全体広報などを行い周知していく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○広報・啓発活動の充実 ・町広報誌・教育委員会だより・公民館だより・町ホームページ・ケーブルテレビや公民館まつりなどのイベントでの呼びかけにより、生涯学習活動の普及、啓発に努めた。 ・各地域の情報が全町はもとより町外にも伝わるよう、各機関が連携した情報提供に努めた。			9
○情報提供資料の充実 ・公共施設に充実した情報提供資料を備えた。			9

施策2 共生社会の実現に関する事業

～ユニバーサルな意識を確実に後世に残すために～

事務事業名	①共生社会の実現		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
東京オリンピック・パラリンピックが終了し、共生社会の実現を図るため、共生社会推進アドバイザーによる講演会を実施し、心のバリアフリーも含め町民1人ひとりの意識の醸成を図る取り組みを行った。		10	継続

課 題		
5つのレガシー(ユニバーサル、スポーツ、カルチャー、ヒューマン、インバウンド)の最大化の取組みが重要課題である。共生社会実現のためにこれまでの活動や、新型コロナウイルス感染拡大防止のためフィンランド共和国との交流はできなかったが、持続可能な取組ができるための仕組みを構築していくことに努める。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○ユニバーサルの推進 誰もが幸せと感じるまちづくりの推進として、障がい者競技であるゴールボール体験会を町内だけではなく他自治体にも出向き実施することで、様々な方に体験していただけた。		10
○スポーツを通じての共生社会実現の推進 ゴールボールやフィンランドの軽スポーツであるモルックの体験会を学校や公民館などの施設で12回行った。また、日本ゴールボール協会による「チャレンジゴールボール大会」が町内で開催され、町内チームを募り体験も含めて行った。パラリンピックメダリストによる講演会も実施し、スポーツを通じての「共生社会(障がい・障がい者理解)」について学ぶことができた。		10

施策3 「学び」と「交流」で繋がる公民館事業

～魅力ある地域を支える人が育つ公民館～

事務事業名	① 公民館の整備・充実		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
邑南づくり教育計画や邑南町の未来を創造する公民館などをもとに12公民館ごとに年間計画を作成し活動推進協議会で承認してもらい、公民館活動を展開した。 公民館活動の中で、起こしてはならない事故を発生させてしまい、安全管理を見直すため、公民館まつり等を中止する館もあったが、今一度、安心・安全の徹底した活動を行うため研修等を実施し、屋内事業も含めて安心・安全を徹底した活動を心掛けて活動を行った。		9.0	改善し 継続
課 題			
安心・安全に事業展開を実施するためのボランティアスタッフの確保。より多くの住民が公民館や地域の活動に関心を持ってもらえるような働きかけが必要。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○公民館活動の推進 全公民館・公民館活動推進協議会を開催し、活動計画の策定や事業内容の検討を行い、各種活動を実施した。 阿須那・移動公民館により4地区にも出かけ公民館活動の推進に努めた。			9
○地域づくりへの支援 阿須那・あすな地区応援隊と毎月会議を行い、情報共有や共催事業を行うとともに活動の支援を行った。			9

口羽・・・毎月開催される地域コミュニティの会合(口羽地区定例協議会)に出席し情報共有に努めた。 田所・・・地区別戦略と連携して、地域のお宝である二ツ山整備を継続。秋には地区別戦略どがあずしょう会の主催で雲海と朝日を見るイベントを開催した。小学生を対象に裾野市の事例を参考にして「何にもしない合宿」を実施した。将来の隣人となることを想定して、年齢を超えた関係作りができた。 出羽・・・出羽地区運営協議会や久喜銀山振興協議会の事業実施に関する支援を行った。 高原・・・両自治会の活動にスポットをあて、化石発掘体験活動の支援とブッポウソウ観察事業を行った。 地区別戦略発展事業団体「高原を楽しくする会」と共催した事業を行い、地域の活性化につながった。 布施・・・宝地区別戦略実行委員会と毎月会議を行い情報共有を図った。またちくせんと共催で人権講演会に参加や、自治会と共催で救急法講習会を開催した。 市木・・・地区社協と共催で、市木地区民の多世代交流を行う事業(地区民誕生会)を年3回開催した。 矢上・・・地域コミュニティである「矢上地区コミュニティ委員会」および「矢上地区戦略事業協議会」の事業サポートを行った。 中野・・・加茂の春市にて中野地区別戦略と協働しフリーマーケットを開催した。 井原・・・地域を盛り上げる団体である井原 MIRAI クラブへの支援を行った。会議、イベントでの準備や当日運営など数多く支援を行った。 自治会を統合するための支援を行った。 日貫・・・自治協の会議等に参加した。 地域のイベントである「平原しだれ祭り」と「長浜人形展祭り」の協力を行った。 日和・・・地域や地区別戦略の動きを公民館だよりや公民館ロビー展示により情報提供、周知を図った。 地域とともにある学校づくりの取り組みを実施し、学校や地域とともに設定した地域目標を活かした事業実施に努めた。	
○生涯学習情報の提供 全公民館・・・公民館だよりを毎月発行し、各館と元気館ロビーに紹介コーナーを設けるとともに、併せて町ホームページの公民館だよりも更新している。その他にも公民館行事や様々な情報を、ケーブルテレビや公民館だより等で定期的に情報発信を行った。 口羽・・・年に2回県図書の一覧を配布し図書コーナーの利用促進につなげた。 田所・・・地区別戦略どがあずしょう会との共催イベントの情報発信は、SNSを活用した。 中野・・・年間を通じて図書の展示に努めた。 市木・・・市木面の譲渡を受け、年間を通じて作品の展示を実施した。	9
○公民館施設整備 ・中野公民館多目的ホールの照明をLED照明に更新する工事を実施した。 また、日貫公民館の玄関屋根改修工事を実施した。	9

事務事業名	② 健康・福祉に関する学習		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
保健課や運動指導士と連携してウォーキングや認知症予防教室など、にも声かけを行い様々なスポーツを楽しんでもらい、健康づくりや交流を図った。		9.0	改善し 継続
課 題			
地域住民で自主的に活動ができるように保健課など関係機関の協力を仰ぎながら支援を行う。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○健康増進事業の推進 阿須那・・移動公民館事業で「椅子ヨガ」を4地域で開催した。 田所・・認知症予防教室を毎月開催した。 運動指導士や保健師の指導による運動教室を定期的で開催した。 高原・・地域学習でブッポウソウ観察事業を行い歩いてブッポウソウ観察館へ行った。 布施・・保健課と連携して高齢者を対象とした教室を年間4回以上おこなっている。 コミュニティ部主催による銭宝冬期オリンピックの開催により世代間交流を行った。 市木・・運動教室を毎週木曜日（第4を除く）、認知症予防教室を毎月第4木曜日に実施している。 年に数回、運動指導士や保健師を講師に招き、事業の充実を図った。 地区社協と共催でグラウンドゴルフ大会を開催し、地域住民の健康増進を図った。 矢上・・主に高齢者を対象に3B体操による健康増進事業を毎月実施した。（すまいる教室） 認知症予防教室を毎月実施した。モルックや苔の寄せ植えなど参加者自らテーマを設定した。（もみじ会） 中野・・運動教室を毎週火曜日に開催しており、保健課の運動指導士に4回来てもらい実施した。 吉時鍼灸院の先生に東洋医学の話しと健康ストレッチの指導をしていただいた。 井原・・運動教室を毎週金曜日に開催しており、運動指導士などの専門家も定期的に呼んでいる。 日貫・・運動教室を毎週火曜日に実施している。運動指導士や保健課にも来てもらい指導してもらっている。 日和・・運動教室を毎週水曜日に実施。保健課等より講師を定期的に招いた。 グラウンドゴルフ大会などのスポーツ大会を実施し、スポーツが楽しめる環境づくりを推進した。			9

事務事業名	③ 多様な分野の学習の場の提供		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
邑南づくり教育計画や邑南の未来を創造する公民館を基に各公民館の年間計画をしっかりと立て公民館運営ができた。地域の方のデジタル化への対応・フォローや今まで関わりの少なかった世代へのアプローチなどに力を入れた。		9.0	改善し 継続

課 題		
学びやすい環境を整えるとともに、公民館に関わる人を増やしていく。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○男女共同参画の推進 口羽・・活動推進協議会には女性がメンバーとして多数参加しているため、事業計画は女性の視点をふまえた内容となっている。 男の料理教室を開催し、普段台所に立つことの少ない男性が家事に参加できるよう支援した。 田所・・島根県西部人権啓発推進センターからパネルをお借りし、暮らしの中の人権パネル展を開催して普段の生活の中に潜んでいる人権について周知した。 布施・・男女共同参画期間にあすてらすにて講演を聞いたり、展示を見るなどした。 石見地域公民館 ・・元祖スーパー主夫の山田亮氏を講師に迎え、役立つ家事の話に加えて、家庭内での役割の固定意識を取り払い誰もが自分らしく幸せに生きる考え方について講演頂いた。		9
○平和教育の推進 町公連協・・平和学習として広島平和記念資料館からパネルをお借りして各公民館巡回方式でロビーに展示した。また、寺井弦氏を講師に迎え、「ヒロシマの思いを伝えていくために」を演題に平和学習会を開催した。 阿須那・口羽・・2館共催で「きのこ雲の下で助かった命」と題し講演会を実施し、人権、平和についての学習会を開催した。 高原・・戦争に関する絵本の読み聞かせを通して平和や戦争について学んだ。 布施・・銭宝地区全体に声掛けし平和公園内貞子像に納める千羽鶴を折った。		9
○人権教育の推進 阿須那・口羽・・2館共催で「きのこ雲の下で助かった命」と題し講演会を実施し、人権、平和についての学習会を開催した。 口羽・・共生をテーマに、フィンランドとベトナム国籍の住民と地域住民との国際交流会を開催した。 田所・・瑞穂中学校と共催で子どもの関する人権について研修会を行い生徒と保護者で理解を深めた。 出羽・・島根県西部人権啓発センターの尾村幸行さんにお越しいただき、災害時に守らなければならない人権について講演会を実施した。 高原・・新型コロナウイルス感染症患者在日常生活に戻りやすい環境を整える活動の証「シトラスリボン」を作成し、改めて5類となったコロナウイルスについて考えた。食を通じて外国人が困っていることや文化を学ぶ学習会を行った。 国際交流員を講師としてフィンランド共和国の文化について学習した。 布施・・男女共同参画期間にあすてらすで講演を聞いたり、展示を見るなどした。 市木・・人権擁護委員と協力し、他事業にあわせて人権グッズの配布を行った。 石見地域公民館・・石見地域公民館共催で人権学習会を1回実施。 中野・・公民館まつりにて人権パネルの展示を行った。 日和・・島根県西部人権啓発推進センターより啓発用DVDを借り、公民館事業や公民館利用者の貸館使用の際にDVD鑑賞による人権啓発を行った(3回)。		9

○環境教育の推進 口羽・・児童と地域住民を対象に地域学習会「口羽のホタルについて学ぼう！」を開催し、地元講師から県天然記念物である口羽のホタルについて学んだ。 田所・・どがあずしょう会と連携して、地域のお宝である二ツ山整備を行った。また、整備の延長でどがあずしょう会主催で秋に朝日や雲海、正月に初日の出を拝むイベントを行い、地域の魅力を再発見することができた。 布施・・ふるさと探検隊として「親子で魚釣り」を行い、魚釣りを行い、釣った魚のお話を地元の方に伺った。 環境福祉部による花壇の整備を行った。 市木・・市木小学校との連携事業で「ふるさと市木探検隊」を実施した。 矢上・日和・・いこいの村しまねを会場に「森の学校」と題し楽しみながら森林教育を行った。(3回) 中野・井原・・石見東小学校に対して、稲作体験(事前学習、田植え、稲刈り)、田んぼの生き物調査(2回)、東明寺山登山(事前学習、登山)を(農)遊邑片田、井原福寿会、北の郷ファーム、東明寺の会といった地域団体と協力して開催した。 日貫・・日貫小学校児童に対して、あゆの生態を学び、つかみ取りから食べるまでを行った。 地域の方から昔遊びを教わることを通して、地域住民と児童のつながりをつくり、地域で子育てを行う機運を高めた。 日和・・春の自然観察会を実施し、花や植物を観察しながら実施した	9
○高齢者学級の開催 布施・・つりびなづくり教室を3回開催した。 市木・・運動教室や認知症予防教室の開催。 矢上・・主に高齢者を対象に3B体操による健康増進事業を毎月実施した。(すまいる教室) 認知症予防教室を毎月実施した。モルックや苔の寄せ植えなど参加者自らテーマを設定した。(もみじ会) 中野・・切り絵教室、フラワーアレンジメント教室を開催した。 島根県社会福祉協議会と共催でくにびき学園公開講座をオンラインで開催した。 井原・・「ひまわり教室」(認知症予防教室)を月1回の頻度で行った。内容は工作、調理、お出かけなどを行った。 日貫・・交通安全教室、特殊詐欺講演会を開催した。	9
○成人学級の開催 口羽・・KDDI から講師を招いてシニアスマホ教室を開催し、スマホの基本的な操作方法について学んだ。 地域学習会「苔玉・ジオラマをつくろう！」を開催し、苔玉やミニチュアを使った箱庭を作った。 羽須美地域公民館歴史講座を開催し、地域の歴史について学んだ。 出羽・・出羽ひな街道に向けての飾り付けの作成についてもち花作り教室と竹細工教室を開催し、もち花や竹細工を作成し、出羽ひな街道実施時に展示した。 布施・・糎を活かした料理教室を3回開催した。	9

市木・・半夏田植囃子の奉納 地域学校「アユのつかみ取りをしよう！」の開催 矢上・・若者世代の交流事業として、「夜にちよい活」を実施した。ボードゲームをしながら交流を計った。 多世代交流事業として、「焚き火を見る会」を実施した。高校生からシニア世代まで幅広く参加が有り、世代問わず交流することができた。 中野・・切り絵教室、フラワーアレンジメント教室を開催した。 井原・・仕事や子育て等で日中、公民館活動に参加できない層に対して 19 時以降から開催する「大人のアフターセブン教室」を定期的に開催した。パソコン教室を定期的に実施し、理解を深めた。	
○現代的課題講座 口羽・・島根県消費者センターから講師を招いて消費者問題出前講座「悪徳商法に騙されないぞ」を開催し、悪徳商法の特徴や被害を回避する方法等について学んだ。 田所・・情報格差のという現代課題に対して、各公民館毎で、スマホの使い方サポートやスマホ教室、SNS講座などを行った。 出羽・・スマホ教室を月 1 回、地域内の方を対象に開催した。 市木・・現代人が抱える心と体の不調の軽減を目的に、町内の鍼灸院より講師をお招きして、「手足ツボ講座」を開催した。 矢上・・スマホ相談を公民館で実施した。常時開設。 中野・・児童クラブの子ども、職員を対象とした防犯教室に共催した。 井原・・夫婦共働きなどにより日中に公民館活動に参加できない子育て世代に向け 19 時以降から開催する「大人のアフターセブン教室」を定期的に開催し、子育て層の参加を促した。 ホットタイムと称し平日の日中に定期的に教室を開催。引きこもり防止につなげたりつながりづくり、集いの場として実施している。 日和・・公民館にて適時スマホの使い方サポートを行った。	9
○ふるさと教育の推進 阿須那・口羽・・地域資源である軍原キャンプ場で川遊びや魚釣り、自然遊具遊びなどを2回開催し、地域の方や地域の良さを知ってもらうことができた。 田所・出羽・・瑞穂小学校と共同でふるさと学び合い講座を開催した。地元の講師を招いて、鱒鮎かぶや久喜銀山遺跡の学習を行った。ふるさと探検隊で山菜採りを開催し、採った山菜を天ぷらやチヂミにして食べるなど食育の推進を図った。 田所・・二ツ山に合わせ本城の整備も行い、本城や本城常光に関する講演会を開催して歴史や風土を学んだ。海でサビキ釣りをして、釣り方や生きた魚の扱い方を学び、釣った魚をその場で唐揚げにして食べるなど食育の推進を図った。 出羽・・地域学校としてわんぱく学校を 3 回開催した。 高原・・地域で自発的に行っているブッポウソウの観察にあわせてブッポウソウ観察事業を行い、地域資源の掘起しを行った。 布施・・ふるさと探検隊として「親子で魚釣り」を行い、魚釣りを行い、釣った魚のお話を地元の方に伺った。	9

市木・・・市木小学校との連携事業で「ふるさと市木探検隊」を実施し、公民館の自主教室である「ふるさと学芸員養成塾」も深く関与した。また、成果発表会にも参加した。 石見地域公民館・市木・・・中学生対象の「中学生 SALON」を実施し、中学生の家と学校以外のサードプレイスになるようボードゲーム等を実施し、中学生のニーズ把握を行った。 矢上・・・日和・・・公民館にて適時スマホの使い方サポートを行った。 矢上・・・小学校と地元寿朗会が行う米作り体験活動のサポートを行った。 中野・井原・・・中野公民館と一緒に石見東小学校に対して、稲作体験(事前学習、田植え、稲刈り)、田んぼの生き物調査(2回)、東明寺山登山(事前学習、登山)を(農)遊邑片田、井原福寿会、北の郷ファーム、東明寺の会といった地域団体と協力して開催した。 中野・・・小学校の要望に応じて地域の方等の紹介等を行い一緒に取り組みを行った。令和5年度は小豆の種まき、むかしの遊び体験を行った。 井原・・・小学校の要望に応じて地域の方の紹介等を行い、一緒に取り組みを行った。地域と学校をつなぎ地域の方が学校で授業を行った。地域と学校協力し雲井の里ヘイルミを飾った。夏休みこどもウォーキングを開催し天蔵滝で水遊びを行った。 日貫・・・地域学校として米づくり・そばづくり体験活動を通してふるさとの良さを学んだ。5・6年生を対象に紙漉き体験を行った。 日和・・・地域学校「日和子ども塾」において地域の自然素材を活用した宿泊キャンプを実施した。	
○高校生を対象とした講座の開催 町公連協・・・卒業を控えた矢上高校生および石見養護学校生の生徒を対象に、社会に出ていく際に必要なことや知っておいてほしいことを学ぶ機会を設けること、将来について卒業後も邑南町にかかわり続け、いずれは邑南町で生活することを視野に入れてもらいたいことの2つを目的として、性教育と命の大切さの講演会と町内で働く若者の人生体験を語ってもらうトークセッションを開催した。 矢上・・・矢上高校2年生の「総合的な探究の時間」の中で、矢上地区の空き屋利活用をテーマにしたグループの研究サポートを行った。	9
○館々交流の推進 阿須那・口羽・・・口羽公民館と連携し、羽須美地域公民館まつりや歴史講座、人権学習会等を実施した。 高原・布施・・・高原小学校校区を対象に高原公民館と連携し、親子で魚釣りを行った。美郷町の比宮公民館と連携しデイキャンプを行った。 石見地域公民館・・・石見地域公民館共催で人権講演会と救急救命講習を実施した。 石見地域公民館・市木・・・中学生のニーズ把握や居場所づくり事業である「中学生SALON」を実施した。「夜にちよい活」と題して、若者交流事業実施した。 矢上・日和・・・森の学校を実施した。 日貫・日和・・・小学生児童等を対象に様々な体験を行う子どもカルチャーバスを開催した。	9

○女性リーダーの育成 田所・・女性セミナーを毎月1回開催し、自分達でやりたい事を決めて準備や進行を任せる取り組みにより、女性リーダーの育成を推進した。 井原・・「大人のアフターセブン教室」を定期的で開催し、講師や参加者を女性にするよう意識して取り組んだ。	9
--	---

事務事業名	④ 学習成果発表の場の充実		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
社会教育の幅広さや楽しさを知ってもらう場として、「WEフェス」を開催した。参加者が約200名あった。社会教育に関心を持ってもらうことができた。今回は、子ども達の学校や公民館、地域活動を披露することを意識して開催し、子ども達の発表や展示を行った。また、日頃から子ども達に関わる団体に出展していただき、子ども達や親子で科学教室や異文化体験をしてもらった。		9.3	継続
課 題			
引き続き「WEフェス」を計画的・有効的に実施し、公民館と関わってくれる方や社会教育に関心を持つ人の掘り起こしにつなげ、地域全体で社会教育に取り組んでいく力を見出し、子ども達の成長やこれからの地域に関わる人材を育てていく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○公民館まつり・文化展の開催 公民館活動の中で、起こしてはならない事故を発生させてしまい、安全管理を見直すため、公民館まつりの中止する館や、ステージ発表、展示会等屋内でできる範囲で実施する館もあった。 阿須那・口羽・・公民館における各種サークル学習活動の成果発表の場として、「羽須美地域公民館まつり」を開催し、舞台発表と作品展示、子ども対象のイベントも行った。 田所・・公民館まつりの舞台発表は中止としたが、これまで各教室や団体で作成した作品の展示を行い、それぞれの発表の場として例年以上に公民館としてバックアップした。また、おおなんケーブルテレビと共同で踊りなどのステージ発表を撮影し放送することで、学習成果の発表の場を提供した。 出羽・・公民館における各種サークル学習活動の成果発表の場として、いきいき展示会を開催した。 布施・・文化展・文化祭、そしてひなまつり文化展を併せて開催した。 市木・・ビッグひな祭り文化展の開催 中野・・公民館における各種サークル学習活動の成果発表の場として、文化展を開催した。 井原・・井原彼岸市(公民館まつり)は中止となったが、展示会を行い公民館利用団体等の活動披露の場とした。 日貫・・公民館内で開催された神楽フェスティバルの支援を行った。 日和・・屋内での発表がメインである公民館まつりを3月に開催し、地区内の7団体の発表等を実施。約200人の来場者があった。			10

○教室・サークルの支援 全公民館・・公民館だより等で教室のPR、サークル紹介を行った。また、サークルで製作したものを展示するコーナーを設け、活動の周知及び参加意欲の向上を図るとともに、来館者に楽しんでもらうように工夫した。 市木 ・・教室で必要な資料等を作成し、活動のバックアップを行った。	9
○公民館活動発表の場(WEフェス)を設ける 「WE フェス」にて公民館活動の展示を行うとともに、子ども達が地域や学校、公民館活動を通しての活動発表をする場を設けた。また、子ども達に関わる団体の協力を得て様々な学びを体験する場となった。 田所・・WEフェスで二ツ山城と本城についての歴史や、最近行ったイベントについて紹介した。 矢上・・WEフェスにおいて矢上地区戦略事業協議会にて行った「やまんば伝説」を身近に感じてもらうためのやまんばプラレールの展示を行った。 井原・・地域と学校を井原公民館がつないで完成した電光掲示板(イルミネーション)をWEフェスの展示コーナーにて紹介した。	9

事務事業名	⑤ 相談窓口		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
邑南町公民館連絡協議会の活動は多くの公民館が関わるので単館で行う事業にもつながり、幅広い取り組みとなった。地域内の方のデジタル化への対応に向けた事業も実施できた。		9.0	改善し 継続
課 題			
相談内容が多岐に分かれているので様々な知識や情報の習得が必要とされる。デジタル化や各種申請手続きへの相談窓口としての機能も充実させていく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○相談窓口の充実 全公民館・町民の学習に関する相談に対して教育委員会・公民館で指導・助言を行い、学習意欲の高揚と人材育成を図り、また、その他の相談についても他機関への取り継ぎを行った。			9
○広域での連携強化 町公連事業・6回 郡公連事業・研修を計画していたが、未実施。 石見地域公民館・市木・川本町の三原まちせんマルシェに中学生SALONとしてボードゲーム交流ブースを出店した。			9

施策4 図書館教育の充実

～魅力ある地域を支える人材の育成～

事務事業名	① 図書館の整備・充実		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
「第3次邑南町子ども読書活動推進計画」に基づき、読書ボランティアの方と共に図書館でのおはなし会、学校、保育所などにおはなしを届けることができた。 学校司書からの相談を受け、資料の選定を協力しておこなった。 図書の新規購入は利用者からのリクエストや現代のニーズに合わせ蔵書構成を考えながら行っている。また、相互貸借、特別貸出を活用し利用者の要望に応えることができた。Web 予約の件数は年々増えている。郷土資料などの登録作業は今後も継続しておこなう。		9.8	改善し 継続
課 題			
子どもたちを取り巻く環境の変化に対応し、親子読書普及を今後も力を入れていく。児童への貸出数が減少傾向にあることから、読書内容を深めるための手だてを学校司書と連携し進めていく必要がある。郷土資料の収集、登録、保存継続的におこなう。資料の廃棄等をすすめ、魅力ある棚構成を目指す。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○新規図書の購入 ・蔵書構成、利用者のニーズを考慮し資料の充実に努めた。調べ学習資料の買い替えなど。新規購入 児童書385冊、一般書558冊			10
○県立図書館特別貸出の活用 ・石見地区、羽須美地区は公民館に県立図書館の図書を設置し住民の読書に供している。 ・借受冊数2,900冊 ・相互貸借(他の図書館より資料の借受)634件			10
○読書普及活動の推進 ・感性やコミュニケーション能力を育み、子どもの生活を豊かにすることを目的とし、保育所・園、小学校、からの要望に対し、読書ボランティアとの調整を行った。 ・公民館の協力により、図書館を利用ができない方に本を届けることができています。 ・個人貸出 33,052 冊(目標値 37,000 冊)は目標値に達していない。理由としては、児童書の貸出しが減少している。団体 4,927 冊(目標値 10,000 冊)。学校図書館、保育所などの福祉施設(感染防止のため来館の減少)への貸出が減少している。 ・ブックスタート 0 歳児35人、1 歳 6 カ月児 58人、3 歳児 47人へ絵本を手渡し、親子読書の大切さを伝えた。 ・子どもたちへ読書の関心を高めるために、夜のおはなし会(1 回)を実施した。また、毎月の展示に工夫をこらした。読書ボランティアの協力により、親子わらべうた(1 回)大人のためのお話し会(1 回)、本館、石見分館でおはなし会を実施した。 ・WEB 予約、貸出冊数の制限をなくした取り組みは好評であり、今後も継続していく。 ・一堂に会しての職員研修はできなかったが、各自自主的に研修会に参加した。			9
○20 歳のブックスタート事業 ・推薦図書を高校学校司書と選定、及び読みたい本を取りまとめ贈呈した。 対象者数86名。			10

施策5 社会体育の充実

～生涯にわたるスポーツの実践と、夢、感動を与えることのできる人づくり～

事務事業名	① 生涯スポーツ活動		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
様々な社会体育事業に邑南町体育協会や邑南町スポーツ推進委員協議会が中心になって取り組んだ。また、スポーツ推進委員は住民へのスポーツ推進に関する事業の運営にも積極的に参加され、会の自立に努力されている。いずれの団体も、コロナ禍で中止となる事業もある中で、できる事業は感染対策をしっかりと行いながら誰もが楽しめるスポーツ振興のために事業実施をしている。		9.3	改善し 継続
課 題			
誰もが楽しめるスポーツの振興を社会体育推進団体と協働して進め、地域に密着したリーダーを育成する。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○町民の健康づくり 邑南町スポーツ協会主催の3種の町長杯のうち野球、ファミリーバドミントン大会が開催された。町内地区スポーツ協会が中心となって実施される地区民運動会も開催されており町民の運動の場も徐々に回復している。			10
○スポーツをととした共生社会の実現 ・スポーツ推進委員中国地区研修時にインドアモルック研修があり参加した。既存のモルックでは室内での実施が難しかったことから、貸出し用のインドアモルックを整備した。町内各種団体の利用が増え、誰でもできる活動として町内に広がっている。 ・出前講座やWeフェスでのユニバーサルスポーツブース等を通じて、レクリエーションや軽スポーツ、ボッチャ、インドアモルックを紹介し、実践した。			10
○2030に島根県で開催される第84回国民スポーツ大会に向けた住民の機運の醸成 県が企画する、トップアスリート事業の採択を受け、町内小学校において、オリンピックによる実技講演会を実施することができた。また令和6年度に実施される中央競技団体正規視察にむけて準備を進めることができた。			10
○部活動の段階的な地域移行に向けた支援 ・大きな課題の1つとなっている指導者の確保について、部活動指導しておられる、地域指導者・部活動指導員の方を対象に研修会を実施した。 ・地域スポーツクラブの立ち上げを検討しておられる場に参加し、課題や必要な支援について情報提供をいただいた。			7

施策6 学び合いによる豊かな地域づくり

～個性と活力に満ちた地域協働体制の形成～

事務事業名	① 出前講座		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
各課をはじめ、公立邑智病院、警察署、消防署、町社会福祉協議会など、各団体でメニューの見直しを行い、全92個のメニューにより受講申込団体の希望に沿った講座が開設できた。		10	継続

課 題		
各課、各団体でメニューの変更、追加を行った。引き続き申し込み団体の希望に沿えるよう、団体と講師との調整を図っていききたい。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○出前講座の充実 ・町民憲章の達成に向け、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行ったうえで町職員、各団体職員などが地域に出向いて講座を実施し、63講座 1,627 人の参加を得た。		10

事務事業名	② 住民自治による地域づくりの推進		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
地区別戦略や自治会と連携し、地域課題の解決に向けた協議・検討を行った。		9.0	改善し 継続
課 題			
各公民館が、それぞれ地域の実情に合わせて、地域の担い手となる団体、組織との情報共有及び連携をはかることで、さらなる住民自治による地域づくりの推進を支援する必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○地域運営組織、地区別戦略発展事業との連携 阿須那・・あすな地区応援隊と毎月会議を行い、情報共有や共催事業を行うとともに活動の支援を行った。また、協力して、地域資源である軍原キャンプ場で川遊びや魚釣り、自然遊具遊びなどを1回開催した。 うことができた。 田所・・地区別戦略と連携して、地域のお宝である二ツ山整備を継続。秋には地区別戦略どがあずしょう会の主催で雲海と朝日を見るイベントを開催した。 高原・・地区別戦略発展事業団体「高原を楽しくする会」と共催した事業を行い、地域の活性化につながった。 布施・・宝地区別戦略実行委員会と毎月会議を行行情報共有を図った。またちくせんと共催で人権講演会に参加や、自治会と共催で救急法講習会を開催した。 矢上・・「矢上地区戦略事業協議会」の事業サポートを行った。 中野・・加茂の春市にて中野地区別戦略と協働しフリーマーケットを開催した。 井原・・地域を盛り上げる団体である井原 MIRAI クラブへの支援を行った。会議、イベントでの準備や当日運営など数多く支援を行った。 日和・・地域や地区別戦略の動きを公民館だよりや公民館ロビー展示により情報提供、周知を図った。			9

事務事業名	③ 健康センターの活用		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
今年度は、新型コロナウイルス感染症の5類以降により、施設利用者が39,984人に増加した(前年度比 57%増)。一方安心して施設を利用していただけよう、落雷により破損した機器の修繕を行った。		9.0	改善し 継続

課 題		
施設の利用形態を検討しながら、利用しやすい環境を整備する必要がある。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○健康センターの活用 ・コロナ禍では実施出来なかった大規模な催しや会議が、例年どおり再開されている。		9.0

施策7 学校と地域が連携(一体化)した取り組み

事務事業名	①食育の推進		
	総合点検・評価	総合 評価	継続、 廃止等
	「食育」の取り組みとして、地産地消コーディネーター1名を配置し、安全安心な地元食材を学校給食で提供した。	8.0	改善し 継続
	課 題		
	地産地消の推進活動では材料費が高騰する状況の中、地産地消と安全安心な学校給食の提供と「食育」の推進を継続する必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績 評価
	○学校給食センター ・2か所の学校給食センターの運営補助と継続した支援を行った。 ・安全安心な給食の提供に引き続き努め、献立や給食だよりの発行などを通じて情報を発信し、継続した食育の推進を図った。		9
	○地産地消の推進 ・給食センターに生産者と調理場をつなぐ地産地消コーディネーターとして給食センター所長が兼務し、地元食材の調達その他、産業支援課からの情報提供や福祉施設から納入することを積極的に行い、地産地消率を上げることができた。 地産地消の推進として、食材費の一部(地元野菜)及び石見和牛肉購入費の一部も継続して町負担とした。 ・今年度も地元食材を東・西両センターで積極的に活用するために栄養教諭、栄養士、調理員と共に取り組んだ。		10
	○一校一菜プロジェクト ・各学校で農産物を育て、それを学校給食や地域の人と食することで、生産から消費までの一貫した過程を体験することを目的とし、11校で取り組み、実施することができた。		10
	○食のボランティアの育成 ・食のボランティアについては、長期間活動がなかったため、改めて活動意向の調査を実施した。ボランティア自身の高齢化もあり、辞退される方が目立った。反面、新規登録者はなかった。今後は公民館等で行う調理教室等と連携して行うよう検討している。		6
	○食の学校の活用 ・行政内部で協議し、活用方法を検討した。また、食の学校の理念を作成し、議会でも報告した。具体的な活用方法の決定や、検討委員会の設立には至らなかった。今後は意見交換を行いながら具体的な活用方法を示していく。		5

事務事業名	② 読書の普及		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
調べ学習に適した資料の収集と相互貸借により学校図書館へのバックアップが充実してきている。図書館での各種行事や学校での読書普及活動において、多くの読書ボランティアの協力を得ることができた。研修会を1回実施。		9.0	改善し 継続
課 題			
現在ある資料の見直しを行うとともに、今後も学校図書館をバックアップしていくための資料収集に努める。 読書ボランティアの更なる資質向上と新たな読書ボランティアの育成に努め、ネットワークを広げていく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○読書の普及 ・読書ボランティアの協力により、朝の読み語り(全校)、ストーリーテリング(全校)、ブックトーク(1校)などの読書活動が継続できている。 ・学校での調べ学習などのレファレンスに対応し、資料の収集を行った。			9
○読書ボランティアの研修 ・町内の約120名の読書ボランティアの方に小・中学校で朝の読み語りなどに関わってもらった他、図書館での行事などに参加、協力してもらっている。 ・研修会を他の団体と協力し実施(1回)することができた。			9

3. 地域文化の創造

施策1 ふるさとの歴史・文化に関する学習の推進

～郷土の文化や文化財を大切に、愛郷心を育てる事業の推進や活動の充実～

事務事業名	① 関係施設の整備・充実と有効活用		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
ふるさと教育推進の拠点としての、文化財関係各施設の機能は維持できており、町内小学校の授業の一環として施設利用があるなど、一定の役割を果たした一方、文化財施設などの老朽化が顕在し始め、今後修繕などを計画的に実施していく必要がある。 各施設の情報提供について、施設の活動状況とリンクした情報提供ができた部分もあり、しまねミュージアム協議会を通じた類似館との連携を図ることで、より一層「伝える」「活用する」「体験する」取組を図っていきたい。		9.5	改善し 継続
課 題			
郷土館、ハンザケ自然館について、町内の小中学校すべてに授業などで利用していただけるよう展示物や企画展、イベントなど両館が持つ情報を各校と共有できる体制づくりをしていく必要があるとともに、地域素材を用いた学習プログラムの開発をすることで、より一層町内の児童・生徒に対する愛郷心の醸成を図っていきたい。ハンザケ自然館は、学習施設としての役割を今一度確認し、事業を実施していきたい。			

主な事業内容と実施状況	実績 評価
○郷土館の整備・活用 ・郷土館の収蔵品の整理は随時行った。 ・展示品の入れ替えを行うなど、展示の充実を図った。 ・来館された方への対応を随時行った。(来館者数:899人) ・郷土館周辺の環境整備として、除草作業を6回実施した。 ・郷土館活動推進協議会を1回開催した。 ・企画展を2回開催した。 夏季企画展「邑南のノスタルジア展」と題し、351人の集客があった。	10
○自然館の活用 ・自然環境に関する講師として講座などを1回行った。 ・特別天然記念物オオサンショウウオの保護及び調査を11ヶ所行った。 ・希少動植物及び湿地などの保護や調査を13ヶ所行った。 ・オオサンショウウオの屋内での産卵について、産卵行動は確認したが、産卵には至らなかった。関連する調査研究に取り組んだ。	9

事務事業名	② ふるさとの歴史・文化に関する調査・学習支援		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
国史跡久喜銀山遺跡に関する講座や小中学校での出前講座などを実施し、町民が直接文化財に触れる機会を提供できた。		8.7	改善し 継続
課 題			
日本遺産となった石見神楽や他の伝統芸能についても、保存継承が図られるよう引き続き取り組みを行っていきたい。 町内に所在する文化財について、今後包括的な保存の仕方や活用のあり方について議論をしていく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○文化財の保護・保存・調査・研究 ・文化財保護審議会を1回行った。 ・中世邑南町域関係史料集を刊行した。 ・史跡久喜銀山遺跡保存活用委員会を 3 回開催した。史跡の価値を明らかにした上で、適切に保存・活用するための保存活用計画を策定した。 ・縄手吹所跡の発掘調査報告書作成を行った。 ・各種開発協議に伴う埋蔵文化財協議を 45 件行った。			8
○文化財の活用 ・出前講座の講座名「ふるさとを学ぼう」などで 5 回対応した。受講者は累計 140 名だった。公民館及び町内団体主催の行事イベントにおける史跡ガイドの支援等を行った。			9
○伝統芸能の保存伝承の推進 ・日本遺産の石見神楽について、市木公民館においてパネル展示を実施した。また、構成要素である「市木面」の型を住民から寄贈を受け、地元神楽団と協働して整理、展示をすることで、伝統文化の継承や保存に対する団体構成員の意識の高揚が見られた。			9

事務事業名	③ 芸術・文化に関する学習支援		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
ハンザケ自然館で、写真展を複数回開催した。また、SNS を運用開始し、様々な取り組みを全国に情報発信をした。		10	改善し 継続
課 題			
邑南の自然・景観写真展について、邑南町の自然の大切さを啓発する観点を勘案しつつ、SNS などを用いた情報発信など、より多くの人に邑南町の豊かな自然に着目してもらえるような方法について検討していく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○芸術・文化活動の支援 ・自然館で「邑南の自然・景観写真展」を1回、「邑南の野鳥展」を2回開催した。前者では応募者の人数は 14 人と例年通りだったが、新規応募者が増え、展示の様相が新たになった。後者では野鳥ファンや写真愛好家の来館が増えた。 ・自然館でInstagram、Twitter の運用を開始した。日々のオオサンショウウオの食事風景や身体測定の模様などを発信。Instagram は 920 人、Twitter は 940 人のフォロワーがいる。			10

4. 人権教育・啓発の推進

施策1 人権教育

～不合理な差別を許さない人権教育と啓発の深化～

事務事業名	① 人権・同和教育		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
ジェンダー平等、障がい・障がい者理解研修や、性の多様性、ネットトラブル関係の研修などを各公民館や企業団体などで行った。また、リモートを利用することで参加者が集まりやすいよう取り組んだ。継続して取り組んでいる各種団体の啓発推進者への講座も開催し、事業所からも高評価の感想もあった。 開催した研修会のアンケート結果では、参加者の固定化傾向解消にむけて、初めての参加者がどの程度あるか、アンケートに項目を設けて調査した。2講演の結果ではあるが回収数に対して初参加者が20%あり、一定数初参加者がいることが伺えた。		9.8	継続
課 題			
引き続き、講演会への参加者の固定化を解消していくため、内容や告知の方法を検討していく。また、同和問題DVD及びDVD「心のバリアフリー」、書籍「部落解放運動史(全国水平社創立 100 年)」を公民館主事会などで引き続き活用していく。小グループ、保護者会などへの啓発が広がり、講演会への参加意識を高め、固定化解消へとつなげて行く必要がある。ひきつづきアンケートで初参加者の把握を行う。 また、各種団体の啓発推進者対象の講座を継続して開催していくことで人権課題を自分の問題としてとらえ、新たな研修参加者へとつながる取組が必要である。			

主な事業内容と実施状況	実績 評価
○職員の研修 ・職員研修を8月、11月、2月に実施し、213名参加した。今後も継続して、職員研修はできるだけ全職員が参加するよう関係課と連携を強めて参加してもらうよう働きかける。 島根県職員の制度を参考に人権啓発研修推進員制度を平成30年度から取り入れ、職員の意識啓発につながるよう部署ごとの人権研修を進めることとし全課で実施した。 県の主催する社会人権・同和教育啓発基礎講座に公民館主事未受講者及び新規採用から3年目までの職員を対象として基礎講座へ参加した。(3回延べ10名)	10
○地域への啓発 ・各公民館での「人権に関する研修」を必須としており、19講座実施している。 地域での人権意識の広がりを引き続き行っていく。	10
○邑南町人権・同和教育推進協議会との連携 ・総会開催の準備段階からしっかりと連携できた。年3回の研修会を開催した。また県の主催する研修会や各種研修会を関係課へも周知し、広く案内を行い、積極的に参加した。邑南町人権啓発推進講座へ各種団体から参加があった。1211団体＋役場(推進員含む)＋公民館2124名。昨年度よりも参加者は減少したが、初めて参加の企業があった。 参加者の固定化がみられるものの一定程度初参加者があることが伺えた。研修会のアンケートでは、行動へと向かう前向きな感想が増えてきている様子がうかがえる。	9
○学社連携による人権・同和教育の推進 ・中学校区ごとに学期に1回以上開催した。県立学校、SSW、浜田教育事務所の参加も得ながらアドバイスもいただき、人権・同和教育の推進状況や支援の必要な児童生徒についての取組内容を検証するなど情報交換することができた。 今後も引き続き人権・同和教育の推進や進路保障に対する理解と、取組みが各校に徹底されるよう開催していく。	10
○人権に関する住民意識調査の活用 令和2年度に行った「邑南町人権問題に関する町民意識調査」の集計結果について、女性が男性に比べ差別を受けていると感じている割合が高いなどの課題も出ている。課題解決のために、人権に対する正しい知識を身につけ、差別を見抜き差別をなくす「多様性教育」を推進していく。	10